



IBSF パラスポーツ（障がい者スポーツ）ハンドブック（各国連盟用）

IBSF（FIBT）パラスポーツ（障がい者スポーツ）プログラムは、優れたスポーツ環境、パラリンピックと健常者スポーツの包括及び当該競技が繁栄するよう、障がい者アスリートのためのボブスレー及びスケルトン競技の発展を目的としているものである。

このハンドブックは、アスリートを募集する各国連盟の計画を支援し、当該競技への参加を考慮している各連盟のプログラムを開発することを目的としている。

種目

最初に、このプログラムに含まれるスポーツ種目は、以下のとおりとする：

- パラ・ボブスレー …車椅子なしで歩くことができる障がい者アスリート用（歩行可能）
- パラ・ボブスレー（座位）…車椅子なしで歩くことができない障がい者アスリート用（歩行不可能）
- パラ・スケルトン …車椅子なしで歩くことができる障がい者アスリート用（歩行可能）

上記の3種目以外の種目は、参加率の伸長並びに障がい者アスリート及び各国連盟の関心に従い、将来的に考慮されうるものである。

パラリンピックの大会種目に含まれるためのIPC（国際パラリンピック委員会）基準は、3地域から最低12か国が定期的に出場していることである。

上記種目は、男女別での開催に参加率が十分でない場合は、男女合同の種目となる。

器具設備

パラ・ボブスレーは、モノボブ及びIBSFが指定したランナーを使用する。

パラ・スケルトンは、特定のアスリートの必要性に合わせてサドルを特別に修正することがIBSFパラスポーツ委員会により精査・公認されるものの、通常（健常者）のスケルトンの現IBSF規則に沿った標準的なスケルトンを使用する。

アスリート資格

I B S F パラスポーツプログラムへの参加資格があるアスリートは、健常者と比べ不利となるものであるが、モノボブあるいはスケルトンを問題なく操作することができる機能障がいのある障がい者アスリートである。

パラ・ボブスレーのアスリートは、モノボブを動かすために押し、トラックでの滑走でモノボブを制御するための運転姿勢に問題なく移行できるアスリートとする。一般的に当該アスリートは、片足または両足を膝下切断しているアスリートである。安全上の理由で、大腿義足（膝上切断のために使われるもの）であるアスリートは、滑走中のモノボブへの影響を防ぐために、競技に参加している間、義足を取り外さなければならない。

パラ・ボブスレー（座位）のアスリートは、スタート時にモノボブを押すことができないアスリートである。例として、移動のために車椅子を必要とするアスリート、脊髄損傷（S C I）のアスリート、膝上で二分の一以上の切断をしているアスリートが含まれる。パラ・ボブスレー（座位）は、競技役員が管理する標準化された重力スタート（gravity start）を使用する。

パラ・ボブスレー及びパラ・ボブスレー（座位）に使用されるモノボブはハンドブレーキを利用し、アスリートはハンドブレーキ（約65kgの力）の操作に十分な上肢の体力がなければならない。アスリートは、モノボブの操縦システムを問題なく制御することに十分な上肢微細運動技能もなければならない。

パラ・スケルトンのアスリートは、1本の足でスケルトンのそりを押すことができ、

- (1) 他の足または義足をそりの上に載せること、または、
- (2) スタート時に、もう片方の足が氷に触れないよう、そりより上空に留めること。

ができるアスリートである。

パラ・スケルトンのアスリートは、トラックを滑降中、そり上に自分自身を留めることに十分な上肢の体力がなければならない。

この時、視覚障害のあるアスリート、筋肉調整に著しい不能（運動失調）を引き起こす障がいのあるアスリート及び重度の不随意運動（アテトーシス）を引き起こすアスリートは、参加資格がない。すべてのケースにおいて、アスリートは、コーチ指導やその他スポーツへの参加に関する管理的事項に従うことができないレベルの認識機能障害を患ってはいけな

I B S F のパラスポーツ競技大会に参加するために、アスリートは、各国連盟による

ライセンスを毎年受けなければならない。障がい者アスリート用ライセンスは、医療保険の加入と大会参加に関する医学的承認の授与を保証するという点において、健常者用のライセンスと同様である。競技参加に関する年齢要求は、健常者と同様である。現在 I B S F の会員でない国のアスリートは、ライセンス以外の全ての条件が満たされている場合、I B S F から直接付与される 1 年間有効の仮国際免許が取得できる。

アスリートのクラス分けシステム

正式のアスリートのクラス分けシステムは、I P C の医事委員会のガイダンス及び支援を受けて再検討中である。この I P C の再検討は、まだ終了していないがほぼ完成しており、参考として、現在のクラス分け資料のコピーが当ハンドブックに記載してある。

アスリートの医療情報

すべてのアスリートの医療情報が、I B S F パラスポーツ委員会より要求される。この情報は、経年的な研究・調査の目的で集められる。医療情報の様式のコピーは、I B S F 医事委員会によって再検討されている。2011年12月の I P C 医事規約の前文に述べられているように：

パラリンピック活動は、その使命を実現するにあたり、アスリートの健康を保護し、フェアプレーとスポーツ倫理を尊重する方法でスポーツが行われることについて、すべての利害関係者が確実に行う手立てを尽くすことを促進しなければならない。そのためには、大会参加者の健康を保護し、身体的負傷と精神的危害の危険性を最小化することに必要な方策を促進しなければならない。健康管理の専門家と連携してアスリートを保護する手段も講じなければならない。

この目的は主として、スポーツ倫理並びに、本人及び他人の健康を保護することの各個人の責任に基づく継続的な教育を通じて達成される。

競技大会

I B S F パラスポーツ委員会は、2014/15シーズンの間にパラ・ワールド・カップ大会シリーズを主催する。大会日程は取りまとめられ、I B S F 公式年間カレンダーに組み込まれる。ポイントは、ヨーロッパカップ/ノースアメリカンカップのポイント表を使用して、授与される。I B S F 規則に従い、大会が開催されるためには、最小で 3 か国から 6 人のアスリートが参加していなければならない。大会は最大 30 人のアスリートまでとし、1 か国におけるアスリートは最大 3 人までとする。

規則

一般的に、健常者のボブスレー及びスケルトンの I B S F 規則を若干修正して適用す

る。パラ・ボブスレー（座位）は、競技役員が管理している標準的重力スタート（gravity start）を使用する。パラ・スケルトンは、上記のとおり、片足プッシュを使用する。モノボブの重量は標準化されており、アスリート及び付加のおもり（5 kgごとで加えられる）の最大重量は100kgとする。競技滑走の前の練習本数は、まだ検討中である。

パラスポーツ活動の略歴

2002/2003シーズンに、ユタ国立アビリティセンター後援で、アーロン・ラニングハム（Aaron Lanningham、対麻痺患者、USA）とゲイリー・クール（Gary Kuhl、BK片足切断者、USA）は、ユタ州パークシティのトラック最上部からのボブスレー滑走に成功した初のドライバー2人となった。アーロンはそこに座ってスタートし、ゲイリーはそりを押して普通に乗り込んだ。このようにして、我々が今日案内している一連の活動が開始した。ゲイリー・クールが、IBSFのパイロットライセンスを取得して、パークシティでの2006/2007アメリカカップで健常者のアスリートと競ったことは、あまり知られていない事実である。アーロンとゲイリーの両者は、翌シーズンの同じアメリカカップ及びカルガリーでの2007/2008アメリカカップで競った。それ以降、何百本の滑走が、4つの異なるトラックにおいて、広範囲にわたる障がい者アスリートによって成功した。今日、カルガリーのアルバータ州ボブスレー協会とパークシティのユタ・オリンピックパークは、正常な発達滑走プログラムにおいて、障がい者アスリートの一体化をした。

パラ・ボブスレー及びパラ・スケルトンの最初の公式国際ドライブスクールは、IBSFの財政的支援を受け、2011/2012シーズンにUSBSFが主催した。スクールには、6か国からの17人のアスリートが参加した。それ以降、スクールは、過去数シーズンの間に、パークシティ、カルガリー、イーグルス及びシングルダでIBSFにより主催された。

2014年5月、IBSFは、権利及び特権が与えられる、パラ・ボブスレー及びパラ・スケルトンのIPC公認国際連盟の地位を授与された。

進行中の過程

パラリンピック冬季競技大会の正式プログラムに当該種目が加わる道筋は、IPCの管理委員会のメンバーによる投票で決定される承認で、努力を要すうね不明確である。パラスポーツ委員会は、そのゴールに向かって懸命に取り組んでおり、継続的に必要条件の知識と理解を拡げている。我々は、この努力における全各国連盟の支援に感謝し、重要な進展につれ、定期的に最新の情報を提供する。我々は、各国連盟からの問い合わせを歓迎し、回答に最善を尽くす。

謹んでご報告まで
FI BT（IBSF）パラスポーツ委員会
2014年5月